



第1会場●2F 第4研修室

■司 会／井上潤一郎 長崎県教育庁生涯学習課 係長
土屋 佳子 沖縄県(株)オフィスハートNPO法人マテルダおもちゃ協会 代表

分科会の進め方

13:30~13:35

1 吉賀は本気だ!帰って来いよお ～地域を支える人材(財)を地域ぐるみで育てよう「サクラマス・プロジェクト」～ 13:35~14:05

福原 靖子(島根県吉賀町) 吉賀町教育委員会 課長補佐

杉内 直也(島根県吉賀町) 吉賀町教育委員会 派遣社会教育主事

「サクラマス」は海で育つてふるさとの川へ戻って来る「ヤマメ」。地域の子どもは地域が育て、そして地域に返す。プロジェクトの目的は「ふるさとの学びや体験をもとに、いつの日かふるさと吉賀町を支える人材(財)の育成」である。豊かな学びや体験、豊かな人の関わりをキーワードに、学校での学びや体験の充実、子どもの地域活動の充実、地域の教育力の充実の3つを柱に活動に取り組んでいる。子どもたちの活動では、学校でも地域でも応援団が支え、恵まれた自然環境を生かしてサクラマスは大きく成長していっている。地域の各種団体・機関を網羅した「サクラマス・プロジェクト地域会議」も立ち上がり、子ども達を中心としたネットワークが構築できている。

2 目指した成人式は「日本一」 ～新成人が発信するメッセージと表現力こそが成功のカギだ!!～ 14:10~14:40

野底 武光(沖縄県那覇市) 那覇市職員労働組合 書記次長

那覇市では、2002年以来、市主催の合同成人式が廃止され、各地域ごとに開催することが決定された。上山中学校区では、荒れる成人式の風評を払拭するため、実行委員会方式を採用し、「日本一」の成人式を目指した。発表者はそのプロデューサー兼実践者である。実行委員会には、新成人、保護者および地域の有志も参加し、地域活動なども織り込みながら1年をかけ企画を練り上げた。式典では、新成人が地域の方々に感謝の言葉を述べた、両親への自立の手紙を手渡すなどのセレモニーと合わせて、彼らが誇る伝統の「旗」やエイサーの演舞も披露され、新成人が発信するメッセージや表現力を大事にして式典のあり方を一新した。

ティータイム

14:40~15:05

3 子どもによる伝統芸能の継承が地域をつなぎ、 異年齢の仲間集団を育て、地域文化を支えている 15:05~15:35

森 和明(長崎県諫早市小長井町) 長立会 指導者・世話人

浮立とは笛の音に合わせ太鼓や鐘を打ち鳴らして、集団で踊る民俗芸能の一種である。当地でも長里浮立の担い手の高齢化が進み、後継者不足の課題を抱えているが、平成9年に地元有志が浮立継承のため「長立会」を設立し、翌年から長里小学校の児童を中心に「子ども浮立」の活動を開始した。多くの子どもの参加を得ることができ、練習の成果は町内行事、市内各種イベント、施設の慰問などで披露する一方、地域の伝統行事である7月の「田祈祷祭」を支えている。活動を続けることで、地域の理解と協力も得られ、子どもたちには自ずと異学年の交流が生まれ、健全育成の成果に繋がっている。

4 人も資源もつないで育てる八幡浜元気プロジェクト 15:40~16:10

濱田 規史(愛媛県八幡浜市) NPO法人 八幡浜元気プロジェクト 代表理事

平成18年創設。高校時代の生徒会メンバー4人が清掃活動からスタートしたプロジェクト。現在は20代~30代のメンバー20人が活動中。専従者は事務局1名で他は「2枚目の名刺」を使ったボランティア。プロジェクトは「つながり事業」と「まち育て事業」の2種類。目的は「住民の参加を得ること」、「地域の資源を活用すること」で共通している。主催事業だけでなく、中間支援を重視し、「かまぼこ板打瀬舟プロジェクト」、「八幡浜お手伝いプロジェクト」、「knockn Rollえひめ実行委員会」などが生まれている。活動が評価され、平成25年度から「八幡浜みなと みなと交流館」の管理業務の委託を受けている。